

# H30年度 家庭の教育力に関する調査結果

～平成31年3月実施～

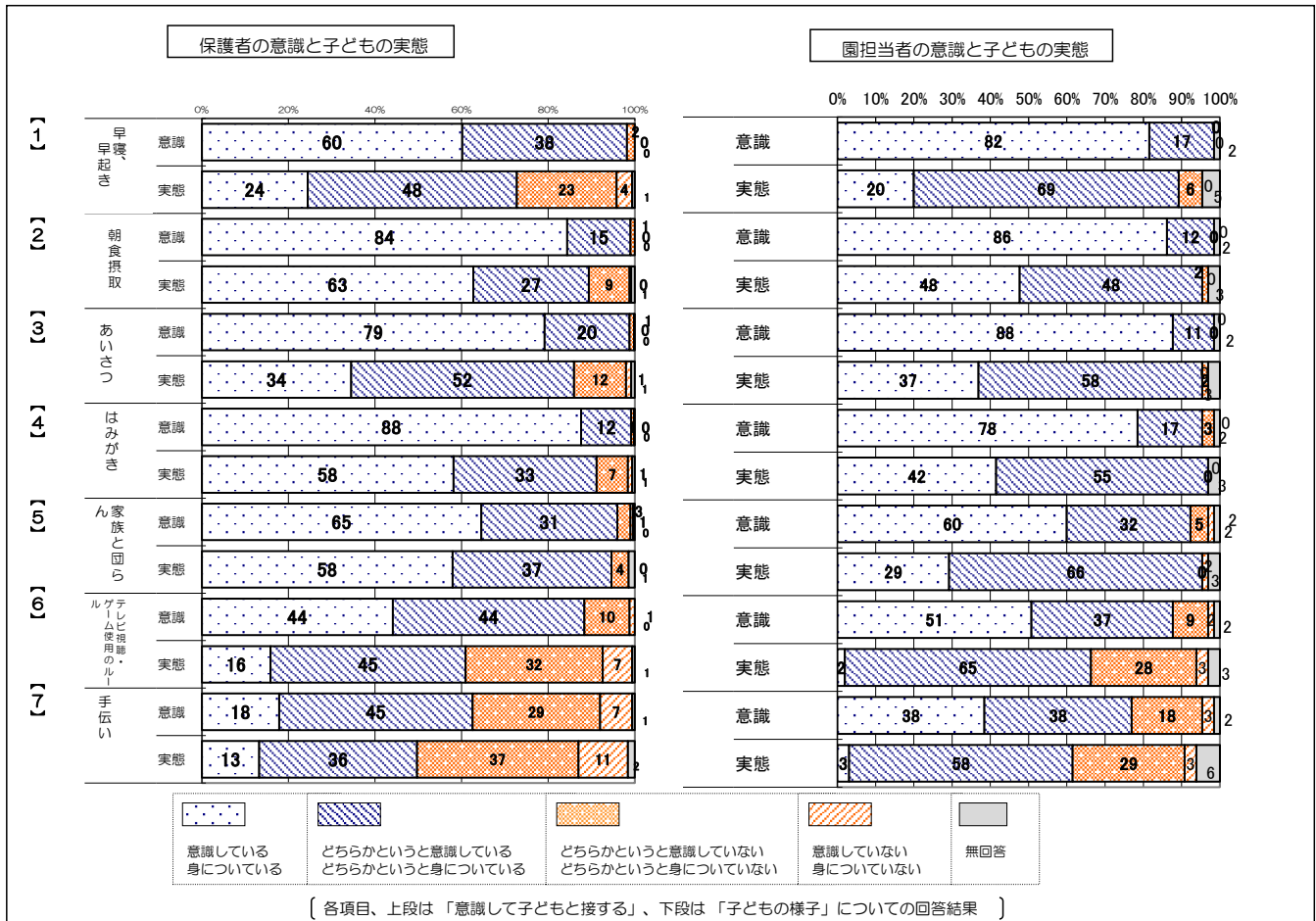
・・・7項目についての意識と実態・・・

市内の保育園・幼稚園に在席する年長児の保護者・園の担当者を対象に、右の7項目について、

- ① 意識して子どもと接しているか
  - ② 子どもの様子はどうか
- という設問で、アンケート調査を実施しました。  
46園、約93%の保護者から回答が届き、以下のような結果となりました。

<調査項目>

- 【1】 早寝、早起きをする
- 【2】 朝食をしっかりと食べる
- 【3】 あいさつをする
- 【4】 歯磨きをする
- 【5】 家族と団らんする
- 【6】 テレビ視聴・ゲーム使用のルールを決めて守る
- 【7】 手伝いを決めて毎日行う



## ・ 回答結果から ・

- ・ 「どちらかという身についている」まで含めて7項目を平均すると、77.8%の保護者、85.8%の担当者が、子どもに 身についていると捉えている。（保担合わせた平均は、81.8%）
- ・ 基本的な生活習慣の定着状況に絞り、【1】【2】【3】【6】の4項目を平均すると77.3%の保護者、86.6%の担当者が、子どもに身についていると捉えている。（保担合わせた平均は、81.9%）
- ・ 子どもの実態の捉えでは、「どちらかという身についている」まで含めると、保護者と担当者では同じ傾向にある。
- ・ テレビ視聴・ゲーム使用のルールは、意識して取り組ませようとしている保護者の意識は高まってきているが、身についていないと捉える保護者が多い。（身についているととらえている保護者：60.9%）
- ・ 「手伝い」について、他の項目と比べ大人の働きかけが弱く、実態も子どもに身についていないと捉えられている。
- ・ 保護者から見た子どもの実態における肯定的回答（「身についている」）での比較では、団らんが94.6%と高く、次いで、歯磨き、朝食摂取、あいさつとなっている。保護者が身につけさせたいこととして、体の成長・衛生という目に見えやすい部分、コミュニケーション力という目に見えにくい部分があり、目に見えやすい事柄については取り組みも具体的でわかりやすく、身につけやすい。

## ・ 今後の課題 ・

- ★ 「家族でニコニコチャレンジ」は、継続。テレビ・ゲーム等の使用ルールを守る取り組みの強化を図る。
- ★ 基本的な生活習慣の必要性を具体的に示し、家族との団らんの中で話題にしてもらう等啓発していく。
- ★ 手伝いの実施については、自立心の育成といった観点から重視したい。手伝いのさせ方についても話題にしていく。
- ★ 関係機関と連携し、家庭の教育力向上への取組（子育て講演会等）を継続し、発信を工夫する。
- ★ メディアの使用等については、必要になってくる社会の動きもあることを認めつつ、「ニコニコせんせい体験」や「ニコニコガイド」等活用し、幼児期に必要な資質・能力を保護者と共有できるようにする。